

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

北海道くしろ地域・東京特別区交流推進事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道及び釧路市並びに北海道釧路郡釧路町、厚岸郡厚岸町及び浜中町、川上郡標茶町及び弟子屈町、阿寒郡鶴居村並びに白糠郡白糠町並びに東京都荒川区

3 地域再生計画の区域

釧路市並びに北海道釧路郡釧路町、厚岸郡厚岸町及び浜中町、川上郡標茶町及び弟子屈町、阿寒郡鶴居村並びに白糠郡白糠町並びに東京都荒川区の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本年度、東京荒川区で実施した東京 23 区との連携事業（「北海道くしろ！旬！秋の味覚市」）における来場者アンケート結果から、首都圏におけるくしろ地域の認知度は必ずしも高いとは言えず、その要因として、くしろ地域が有している雄大な自然や豊富な食資源などの魅力的な情報の発信が不足していることが挙げられる。

この課題に対処するため、首都圏をターゲットとした、交流人口の拡大やくしろ地域特産品の新たな販路拡大に向けた効果的なプロモーションが必要であり、合わせて、釧路管内全体での観光客等受入体制の充実を図り、道央圏に集中している観光客等を、くしろ地域へ誘客することが喫緊の課題である。

4-2 地方創生として目指す将来像

くしろ地域の人口は、北海道全体の人口減少率を上回って減少しており、人口減少を抑制するため、交流人口の拡大などの地域活性化が喫緊の課題となっている。

くしろ地域は、釧路湿原をはじめとする地域特有の自然や豊富な食資源、産業、アイヌ民族等の歴史・文化的魅力を有し、また、雄大な自然環境に加え、「スギ花粉が無い」、「夏は涼しく過ごしやすい」など、温泉や森林浴、その他様々な体験型観光メニューを有するなど、国民の健康に対する意識が高まる中で、ヘルスツーリズムの適地としての大きな可能性を秘めた地域であり、これらの地域資源を活かした「くしろ地域の魅力」を人口が集中する首都圏に向けて発信することで、交流人口の拡大や特産品の販路拡大を図り、地域経済の活性化を目指すことが重要である。

また、この取組を釧路管内市町村と北海道及び東京都荒川区で協力・連携することにより、「ひと」や「もの」の交流をさらに発展させ、くしろ地域と荒川区がお互いにプラスとなる交流の拡大に繋げていく。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
くしろ地域の観光入 込客数(千人)	7,431	123	123	123
くしろ地域知名度 (%)	44	2	2	2
荒川区と他自治体に おける交流自治体数	150	50	50	50

	KPI増加分の累計
くしろ地域の観光入 込客数(千人)	369
くしろ地域知名度 (%)	6
荒川区と他自治体に おける交流自治体数	150

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

くしろ地域と荒川区が連携し、日暮里駅前でのイベント開催など、くしろ地域特産品の販路拡大や地域の旬な食材の普及拡大を図る。また、首都圏の学校等をメインターゲットとした教育旅行の誘致やヘルスツーリズムの拡大に向け、くしろ地域の歴史や自然、アイヌ文化などの地域資源を活かした効果的なプロモーションを展開し、首都圏における「くしろ地域」の認知度を向上させ、交流人口の拡大を図るとともに、くしろ地域と東京特別区との連携促進に向けた事業の企画や関係機関・団体との折衝及び調整、くしろ地域のPR活動など、両地域の橋渡し役となる交流推進員を配置する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

北海道及び釧路市並びに北海道釧路郡釧路町、厚岸郡厚岸町及び浜中町、川上郡標茶町及び弟子屈町、阿寒郡鶴居村並びに白糠郡白糠町並びに東京都荒川区

② 事業の名称：

北海道くしろ地域・東京特別区交流推進事業

③ 事業の内容

「くしろ」の地域資源を最大限に活かし、交流人口の拡大や特産品の販路拡大を図るため、次の事業を実施する。

(1) 教育旅行誘致・ヘルスツーリズム拡大に向けた首都圏プロモーション事業

くしろ地域の豊かな自然や食資源などの観光素材を最大限に活かした、魅力ある観光プログラムを構築し、新たな旅行客の獲得とリピーターの増加を目指し、それぞれのニーズ把握のための調査や課題の把握、受入体制を整備する。

特に、教育旅行誘致については、荒川区の協力により新たな教育旅行誘致プログラムの開発を計画しているが、高校生や中学生にくしろ地域の歴史や風土、体験内容などに関心を持ってもらうことが重要なことから、くしろ地域の歴史や自然、アイヌ文化に精通した人、体験事業者などを「くしろ出前伝道師」として、荒川区内の中学校や高等学校に講師として派遣し、くしろ地域のアイヌ文化や風土などを説明する出前授業を行い、地域への興味と認知度の向上を図る。

また、ヘルスツーリズム拡大については、くしろ地域の認知度向上と今後実施するモニターツアーへの参加者確保のため、くしろ地域のヘルスツーリズムの取組である「運動、温泉、食」を説明・体験する「(仮称)くしろヘルスフェア」を荒川区内で開催する。参加対象者は、荒川区内で健康意識が高く、健康・スポーツ活動に取り組む区民とし、フェアでは、くしろ地域の体験事業者、温泉名人、地域食材を活用しているシェフにより、各分野の説明を行うとともに、地域の健康食材を使った料理を提供するものとする。

ヘルスツーリズム体験モニターツアーについては、フェアにおいて参加者として確保した荒川区の健康意識の高い区民に平成29年度の地域のモデル地区として位置付けている川湯温泉のお試しヘルスツーリズムプログラムを体験の上、アンケート調査を行い、プログラムの

開発と磨き上げを図る。なお、ツアー実施時期は、くしろ地域の冷涼な気候特性を活かした夏と、雪や氷点下を活用したプログラムが提供できる冬の2回の実施を予定する。

(2) 「くしろ地域」特産品の販路拡大事業

首都圏における販路拡大に向け、荒川区日暮里駅前で開催される「にっぽりマルシェ」へ『北海道くしろ！旬！秋の味覚市』を出展し、くしろ地域の特産品（加工品）や観光地としての認知度の向上を図る。

また、「北海道くしろ！旬！秋の味覚市」の出展と連動し、荒川区関連施設の飲食事業者に対し、くしろ地域の旬な食材を紹介し、メニュー化を働きかけることにより、くしろ地域の食材を使った料理を提供する「(仮称)くしろウィーク」等を実施し、くしろ地域食材（生鮮品）の普及拡大を図る。

(3) 東京23区交流推進員の設置

くしろ地域と東京特別区との連携促進に向け、各活動の橋渡し役となる人材を都内に配置し、首都圏におけるニーズの把握や特別区との連携事業に係る企画、その他関係機関・団体との折衝等の調整、くしろ地域のPR活動に従事する。

具体的には、教育旅行の誘致に向けて学校や旅行エージェントを訪問して情報収集とPRを行うほか、荒川区内の学校で予定しているくしろ地域を紹介する出前授業の調整や講師対応、ヘルスツーリズム拡大については、荒川区内で実施するイベント「(仮称)くしろヘルスフェア」の調整や、モニターツアー実施のための周知活動の実施、くしろ地域特産品の販路拡大においては、イベント開催に当たっての現地調整、荒川区関連施設での「(仮称)くしろウィーク」の実施に向けた荒川区及びくしろ地域生産事業者との調整を行う。

また、交流推進員の活動状況を紹介する「(仮称)交流推進員レター」を作成し、市町村及び荒川区の観光・物産・移住等関係職員へ発信することにより、活動結果をフィードバックする。このことにより、両地域職員の繋がりを増加させ、新たな交流機会の確保に繋げる役割を担う。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

本事業の推進主体である「くしろ圏観光キャンペーン推進協議会」の構成員には日本版DMO候補法人が含まれており、将来的には教育旅行やヘルスツーリズム等を商品化し、その収益を基にした実施に繋げる。

また、くしろ地域特産品の販路の拡大により、民間企業の収益増加

とともに、連携事業の重要性が認識され、民間サイドの自主的な実施につなげる。

一定の収益が見込めるまでの間は、地方公共団体の一般財源を充当することにより財源を確保する。

【官民協働】

本事業の推進主体である「くしろ圏観光キャンペーン協議会」には、管内自治体の他、釧路観光連盟や交通事業者など観光関係者が構成員となっており、自治体と民間企業が連携して地域の観光事業の推進に取り組んでいる。

【政策間連携】

本事業の取組の一つである、教育旅行誘致やヘルスツーリズム拡大事業では、観光分野だけにとどまらず、学校関係などの教育分野や一次産業である農林漁業関係、医療・福祉分野などと連携することにより、観光メニューの創出が図られ、交流人口の拡大に寄与する。

【地域間連携】

北海道（釧路総合振興局）と管内市町村が連携し、くしろ地域一体となって取り組むことで、各まちの観光や食資源を組み合わせ、より高い相乗効果が期待でき、効果的なPRが可能となる。また、東京都荒川区と連携し、お互いの「ひと・もの」の交流による地域活性化が期待できる。

【その他の先導性】

本事業は、北海道町村会と東京都特別区との連携プロジェクトを効果的に進める取組として、くしろ地域が道内他地域に先駆けて取り組んでおり、先進事例として道内各地域へ波及効果が期待される。

⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
くしろ地域の観光入 込客数(千人)	7,431	123	123	123
くしろ地域知名度 (%)	44	2	2	2
荒川区と他自治体に おける交流自治体数	150	50	50	50

	KPI増加分の累計
くしろ地域の観光入込客数（千人）	369
くしろ地域知名度（%）	6
荒川区と他自治体における交流自治体数	150

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を関係自治体の企画部署が取りまとめる。

また、物産市「にっぽりマルシェ」の会場でアンケート調査を実施し、参加自治体の関心度について調査し効果を検証。

【外部組織の参画者】

「くしろ圏観光キャンペーン協議会」「釧路地域づくり連携会議」において、協議会及び会議を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

【検証結果の公表の方法】

必要に応じて地方版総合戦略や今後の事業運営方針に反映させ、検証結果は、ホームページで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 56,852千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日（3ヵ年度）

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

【検証方法】

毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を関係自治体の企画部署が取りまとめる。

また、物産市「にっぽりマルシェ」の会場でアンケート調査を実施し、参加自治体の関心度について調査し効果を検証。

【外部組織の参画者】

「くしろ圏観光キャンペーン協議会」、「釧路地域づくり連携会議」において、協議会及び会議を構成する有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
くしろ地域の観光入 込客数(千人)	7,431	123	123	123
くしろ地域知名度 (%)	44	2	2	2
荒川区と他自治体 における交流自治体数	150	50	50	50

	KPI増加分の累計
くしろ地域の観光入 込客数(千人)	369
くしろ地域知名度 (%)	6
荒川区と他自治体 における交流自治体数	150

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、関係自治体がホームページにより公表を行う。